

第 11 回 返子の未来協議会 グループワークまとめ

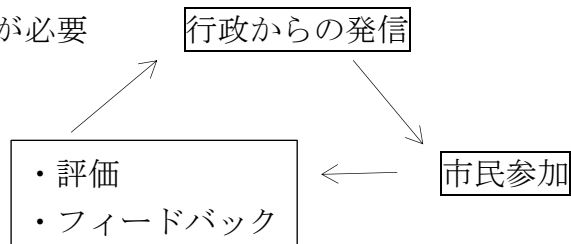
<重視したい考え方、条例に盛り込みたい文言など>

【市民参加の見える化】

これまでの行政は、決めたことを伝えるだけ、これからは市民が参加する必要がある。市民が行政に関わる。

- ◆ 市民が参加することを見せる、知ってもらう
 - 情報の発信
 - ・知っているだけでなく、いろんな人に知ってもらう
 - ・情報を多く発信してもらう
- ◆ 行政の見える化
 - ・市も職員の人知る
 - ・誰がやっているか知る
- ◆ 評価が必要

⇒市民の人は親しみやすい
→市民参加につながる



行政 これまで

└─ 決めたことを伝える

↓

これからは市民が参加する必要がある
市民が行政に加わる

↓

- ◆ 市民が参加することを見せる、知ってもらう
 - └─ 仕組みが必要
 - イベントであれば参加者を示したり、ボランティアの活動の記録
 - 数値や評価が必要となる
 - 知っている人だけではなく、いろんな人に知ってもらう
 - 盛り立てる
- ◆ 見える化と評価の考え方について
 - ↓
 - ↓
 - 情報公開 行った後
- ◆ 市役所にボランティアがいてもいいのでは
 - ボランティアを増やす
- ◆ 市役所の職員の顔を知る、顔写真をのせる
- ◆ 市の職員と顔の見える関係になる

親しみやすい職員 ⇒ 市民参加につながる
市民との距離がなくなる

- ◆ 情報を多く発信する etc : ビーチ FM の利用
⇒ 市民からの フィードバック が市民参加になる

↓

簡単ですぐできるもの

- ◆ 行政と市民をつなぐパイプ役が必要ではないか
効率的にやるのがいいのではないか
ちょっと近い位置で市の方から地域に入る
情報を発信すると同時に地域から情報を取りに行く必要がある
- ◆ 市全体の組織を変える必要がある
職員、議会、地域
- ◆ 自治会、町内会
活動の広がりが必要になってくる
現役世代が入りやすいように
- ◆ 一番小さい組織をうまく利用する
ごみステーション パトロールとか
少しずつ広げていく ← 市の助けが必要、市がどんどん介入する
↓ 援助がいるのでは、仕掛けが必要
地域全体が一つになる 市民参加

【高齢者・障がい者・社会参加】

地域の体育会

サークル・講座の充実

関心をどうもってもらうか

広報紙・周知

→

紙媒体、他団体の協力

回覧板

—— 多くのつながり

子育て、介護

仕事をしていて つながりが薄い → きっかけが必要

環境づくり

生活に身近な問題

ごみ捨て場

防災

} ここからのアプローチ

生きがいつくりのため

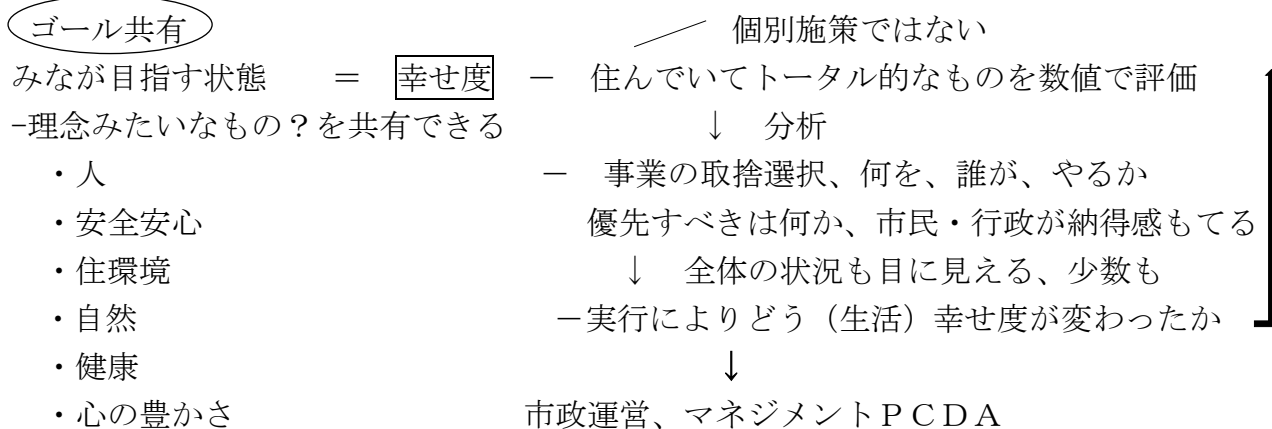
【課題解決プロジェクトチーム 外部機関】

- ◆ 具体的なことが書いてある条例が良い。住民に守ってもらい内容を明記
Ex：ごみ問題 分別はしっかりやって、野良猫のえさやりはやめて
 - ◆ 外部のコンプライアンスを導入すれば
 - ◆ 問題の共有化はしているのか？
→問題のレベルによる ex：ごみの分別、最終処分
(市長)
 - ・人口問題について危惧している → 職員は知っているの？
→ 知っているけど受け手によって違ってくる
 - ・議論がその場限りになっているのでは？ → やって結果をどう反映
していくの？
→ 報告書が大事
→ アリバイ作りになっている
 - ・子育て世代に住んでもらいたい
→ 納税
 - ・人口増維持するには何かを
→ 何かをしないと！ → 共有化されていない
Ex:小学校にいじめがない
→ それだけでも人が入ってくる
 - ・成功するには横ぐしを！！
 - ・社内で調整する機関がある
 - ・「外部」のコンプライアンスを導入！
 - ・オンブズマン チェックする機関が必要
 - ・市は民間の努力を吸収する仕組みがあれば良い
 - ・住民が分かりやすい条例を → 具体的なことが書いてある条例
言葉はいろいろ書いている
↓
 - ・住民はこういうことを守って生活
してくださいね
Ex；ごみ問題とか、猫にエサやり
 - ・意識の問題
- ◇ 1つでもコンセプトを決めてそれをやっていく！
■をその後に肉付けを
揺るぎのないコンセプト！！
毎回議論が違っている

【体質改善（すぐやる課）】

- ◆ 閉じられた行政である事と考える → より開かれたものに
高齢者の意見を傾聴 ジャンルを越える仕組み立て、コラボレーション
- ◆ 逗子の財政危機、唐突すぎる印象、組織機能しているか？（議会も含めて）
- ◆ 松戸／すぐやる課、蜂を取る人とマネージメントを配置
マネージメントとプロフェッショナルと使い分けと配置
→ 即断即決
- ◆ 以前は仕事の関係で縦割りの壁、リタイアして市民活動、自治会活動で縦割りに
→ 市民はフラットなボランティア
(例) 沼間小学校、東逗子駅ロータリー美化プロジェクト
すぐやる課／高齢者のスキルを持った人有効活用
- ◆ 何のために市民協働が必要か。(将来のためか今のためか)
もっと若い人の意見を集める場を。部長がもっと統括する動きを
- ◆ 情報共有が重要 (すぐやる課をやるためにも)
コーディネーター機能が重要
- ◆ 地域担当職員は縦割りを打破するもの。昔に比べて職員の意識は変わり横ぐしを
指す気運も出てきている
- ◆ 今でも市民協働に対して批判的な人多い
- ◆ 自治条例の制定は市職員の意識改革のため
- ◆ 国全体の単年度予算システムの制約、これをより機能的なものにする？

【幸福度】



- ◆ 市政運営 — マネジメント — ゴール共有、納得感、妥当性

企業でいえば理念

P D C A

・評価

↑

↑

これを切り口として

幸福度

どっちが市民にとって幸せなのか？

やることの、誰が何を

取捨選択しやすくなる

捨てられがちな項目も含め

トータルのに

- ◆ 世代、時代、環境によって違う

— この街に住んだら、今後どうなる？

・市民の活動を知るきっかけ

・他の人がおかれている状況を知れる

・考え、尺度も

- ◆ 条例によって何が変わるか

— 個別の事業、施策ごとの評価はあるが…生活がどう変わったか、分からない

満足度

トータルで市民の幸せのイメージ

共有されていない

- ◆ **幸福度** — ブータン

育て世代

— 評価 行政サービス

住環境

海、山、都会にはない子

満足度

— 達成度 安心、宗教との兼ね合い、心の豊かさ、健康

↑

・目標設定により変動 ← 幸福度の視点から

↑

・方向、方針により変動

- ◆ 自然 — 緑 — 開発抑制

→ **住環境**

- ◆ 安全

→ **住環境**

・ 高齢化により空き家増

ごみの分別多様化に対応できない ごみ屋敷増

- ◆ きれいなまち、空気 — 市民生活、自治会 → 行政へ声を届けられる仕組み

- ◆ 市民意識調査 — 見える化点数制 — 分析 — 何が上がった？下がった？

費用対効果

行政だけでなく、

どうやるかポイント

市民の貢献も

個々の計画、活動

【情報公開】

- ◆ HP
 - 管理体制 — 半年ごとにトータルで見直して
 - デザイン — 見づらいから他市参考に見やすく（特にトップバナー）
 - 検索方法 — 探しづらい、ヒットしない
 - 分かりやすさ — 何も知らない人でも分かるような内容にして
 - 更新情報 — NEWがない（各課のページ）、更新情報（日付）記して
- ◆ 会議録（特に議会）
 - 仕上げのスピード — 自分が見たいタイミングで仕上がってこない
 - 検索方法 — どうやって探せるのか手順研究しないとイケない
 - 媒体（文字、動画） — 文字、紙にこだわらない
簡単にすぐ見れる媒体でいい
- ◆ 会議
 - 市民の参加 — 各会議に市民2～3人参加
市だけが知っていること、市民だけが知っていること
共有したい
- ◆ 逗子7丁目に自治会ない
- ◆ 欲しい情報は市役所1階に言って要求しないとならない→ 手続き → なければまた探す
- ◆ 公開対象の文書をまず一覧にして提示して
- ◆ 逗子の活動・会議は活発、だけど、入りたくても入りづらい状況。漠然とした思いをネットでも対話できるようにしてほしい
- ◆ 議会の内容を公開してほしいけどもなかなか見つからない。探し方が難しい。探したいときにすぐに見つからない
- ◆ 検索クエリボックスが他市と違ってヒットしにくい
- ◆ 議会の会議録の仕上がりが遅い、6か月先
- ◆ 議会の会議録、文書だけでなく音声だけでもいい。お金をかけなくてもいい方法でもいい
- ◆ 監査は公開されていない
- ◆ 会議録をアップしていてもすぐに見つからない。市民に届くのが遅い
- ◆ 逗子のHPが一番見にくい。他市に比べて
- ◆ HPをトータルで管理体制を半年ごとに見直してほしい
- ◆ 市は膨大なデータをもっているが、市民が知りたいのはピンポイント
- ◆ HPのトップバナー見にくい。他市ない
- ◆ NEWがない。各課のページに何月何日更新と表示して
- ◆ 広報ずしの中の情報、さかのぼりづらい

- ◆ 防災安全課の備蓄情報、HPで更新して
- ◆ 議会会議録6か月先だが、関係資料等の情報公開が先行される場合がある
- ◆ 市民だけが知ってる情報、市だけがもっているものもある
- ◆ 各会議に必ず市民2~3人を参加させる等必須にしてほしい

【テーマフリー（特にテーマを設定していないグループ）】

● 行政にのぞむこと

- ◆ 現場をよく知る行政
- ◆ 同じ市内でも環境、状況が違っていると感じる
- ◆ もっと声を聞いてほしい
- ◆ 居場所づくり、幅広い世代が自由に集まれる場所が欲しい
- ◆ 子どもを中心として親を巻き込むことによって行政の考え、想いを共有できる
→ 子どもの頃から市を意識し考えることによって、ずっと住みたいと意識を醸成できるのでは？ 家族では話し切れないことなどは自治体の先輩を巻き込める取り組み
- ◆ 住民福祉の増進が自治体の目指すこと
福祉、環境、教育
- ◆ 未成年の子どもがいる世帯の支援と把握
→ 市として担当はいるが統計的に整理されていない
子ども食堂等は有、実感としてはどの地域はどんな感じとかある
- ◆ 個別のケースに柔軟に対応できる役所になってほしい
- ◆ 条例を日本一シンプルにしよう = 市民にやさしいのでは？
→ 総合計画が250ページあっても読まない
- ◆ 市民が市のことを考える文化が若い人に引き継がれていないと感じる
↓
コミュニティカフェ等、気軽に考えられる場が欲しい
- ◆ 地域でそれぞれ個別に活動している人は意外と多いが知られていない。横のつながりがなかなかない
- ◆ 広報が読まれていない。書き方が固い
- ◆ 困っている人の声が届きやすい仕組み、民生委員は70人程度（各丁ごとにいるぐらいの規模）